

わかるうと努力する姿勢を



今任期最後の会長挨拶をする 永田光春会長

新居浜別子倫理法人会設立の当時を回顧し、設立趣意書を朗読。

◆「昨今の日本人の心の乱れを痛感するとき、企業人として、この純粋倫理の勉強を行い、また社員の教育や家庭内の教育などによって社会を良くする運動に一人でも多くの方に賛同いただき倫理経営を学んで行きたい」

—新居浜別子倫理法人会設立趣意書より—



「子は親の心を実演する名優である」(子女女優)の輪読

- ◆子どもが手に負えぬ、悪くて困ると言う時、その原因は、悉く両親にある。
- ◆子ども自身に現れた病気でさえも、例外なく、親の生活の不自然さが反映したままである。

—万人幸福の栞より抜粋—

モーニングセミナー

今日一日、朗らかに安らかに、喜んで進んで働きます。

<制作・著作>
新居浜別子倫理法人会
TEL 0897-65-1644
FAX 0897-65-1644
beturin@mx82.tiki.ne.jp

お子様ランチ

夢と感動を与えること

若い夫婦が東京デイズニールランドの中にあるレストランに入りました。店員がその夫婦にメニューを渡すと、二人はメニューを見ずに、「お子様ランチをください」とオーダーしたのです。「お客様、誠に申し訳ございませんが、お子様ランチは九歳未満のお子様までと決まっておりますので・・・」と、丁寧に断りました。すると、その夫婦はとても悲しそうな顔をしたので、店員は事情を聞いてみました。「実は・・・と奥さんの方が話し始めました。「今日は、亡くなった私の娘の誕生日なんです。娘

は最初の誕生日を迎えること出来ませんでした。子供がおなかの中にいる時に、主人と三人でこのレストランでお子様ランチを食べようね、って言っていたんですが、それも果たせませんでした。子どもを亡くしてから、しばらくは何もする気力もなく、最近やっと落ち着いて、亡き娘にデイズニールランドを見せて、三人で食事しようと思ったものから、店員は話を聞き終えた後、「かしこまりました」と答え、「お子様はこちら」と、夫婦の間に子供用のイスを用意しました。やがてそのテーブルに

第177回モーニングセミナーの状況



講演する、新居浜市役所発達支援準備室西原勝則講師

自己を客観的に発見する

「マズローの欲求五段階」についての説明

平成二十年八月二七日(水)午前六時から、ふじ結婚式場において、新居浜別子倫理法人会第百七十七回モーニングセミナーが開催されました。

今回は新居浜市役所発達支援準備室、西原勝則様を講師にお迎えして、「自己発見」と題して講演して頂きました。

はじめに、マズローの欲求五段階の説明から、人は結局、一人では生きて行けないことから、総て人間関係

その後、自己を発見する一つの手法として、東京大学医学部心療内科が開発した「エゴグラム」という心理学チェックを個々それぞれ実施しました。

このエゴグラムでは、一、親(父親)、二、親(母親)、三、大人の部分、四、子ども(従順・協調性)、五、子ども(自由奔放)と分野を五つに分類し、それぞれの個人の行動パターンから、心理面を分析しようとするもので、客観的状況が把握出来、私自身にとっても新発見があり非常に興味深いものでした。

ガチャガチャ

大人には思いもつかない

お金を入れてハンドルを回すと、カプセルに入ったおもちゃが出てくる「ガチャガチャ」をこぞ存じでしょうか。スーパーカー、恐竜、ウルトランとかの消しゴム集めが流行ったこともあ

地域によっては、「ガシャポン」とも呼ばれるその機械には、その時代その時代の子供たちの流行りものがいっぱい詰まっています。スーパーカー、恐竜、ウルトランとかの消しゴム集めが流行ったこともあ

これは、ある小学三年生の男の子のお話です。通学路に一軒の駄菓子屋

がありました。そして、店先には、「ガチャガチャ」が置いてありました。男の子がいつものようにそこを通りかかると、体の不自由な子供が悩んでいる。男の子は気付きました。震える手では、細い溝にまくお金が入れられないことに。物おじしない性格の男の子は、だから迷うことな

「自分で回すから楽しいでしょ?だから、その子の手を持って、一緒に回してあげた」

人の思いや熱い言葉も、上っ面で中身がなければ、どんなに飾っても伝わりません。本物なら、飾らなくても、言葉が足りなくてもちゃんと相手の心に伝わるはず。カタチばかりに囚われて、飾り立てようとするものが多い中、物事の本質を心を込めて地道に実行して行きましょう。

中身がなければ

これは、ロンドンのフラワール・ショーで見事な花を披露して優勝したイギリスの少女のお話です。コンテストの審査員達は、後でその少女が太陽も良く

環境は自ら作るもの

当たらない小さな屋根裏に住んでいることを知り、大いに驚きました。「そういう所でどうやってあんなに立派な花を育てるのかが出来たのですか?」と尋ねると、少女は微笑みながら、「別に特別なことをしたわけではありません。花を育てるだけ日光に当ててやりたいと思っただけです。鉢植えの花は、その話にちよつと恥ずかしくなりました。」

を動かしただけです」と答えました。いつでも、つつい、環境や人のせいにしてしまう私自身は、その話にちよつと恥ずかしくなりました。」

係が問題であることを認識させられました。また、自分を知るほどにしか他者を理解出来ないということから、深く愛された人でないと、結局のところ人を深く愛することは出来ないのだとの説明に思わず納得させられました。このように、組織の中で人間関係の対応はたいへん難しく悩ましいものがありますが、「わかつた」と認識して行動するのではなく、誠実に「わかるうと努力する」姿勢が大事なことを感じました。